

認知症疾患医療センター通信

夏号

この度栗田病院認知症疾患医療センターでは、認知症疾患医療センターを知っていただくとともに地域の皆様とのつながりを強くするため、センター通信を発行する事になりました。
認知症に関する情報や疾患センターでの事業などをお伝えしたいと思っておりますので、是非ご覧ください。



認知症医療疾患センターとは？

当院は令和4年4月1日、県より認知症疾患医療センターの指定を受け診療を開始しました。

認知症疾患医療センターとは住み慣れた地域でその人らしく生活が続けられるように

1. 認知症かどうかの鑑別診断や認知症に関する詳しい検査や診断治療を行う
2. 行動・心理症状(怒りっぽい、落ち着かない、抑うつ状態などの心理症状)や身体合併症への対応
3. かかりつけ医や介護福祉、自治体との連携を行う専門医療、地域の連携を提供する役割を担っています。



認知症疾患医療センターの職員は、認知症専門医・公認心理師・精神保健福祉士で、いずれも認知症の専門職です。

受診をご希望の方

- ① かかりつけ医がいる方はまずはかかりつけ医に相談
- ② かかりつけ医がいない方は直接ご相談(裏面に記載)

【活動報告】

◆おれんじカフェへの参加

公認心理師である武舎心理師が参加しました。
◎4月から地域包括支援センター芹田と共催で
当院 2 階のみーるカフェに於いて
毎月第 3 水曜日に「おれんじカフェ」を開催しており、
毎回当院の専門職種による
「ミニ認知症講座」を開催しています。



◎4月9日・6月11日、三輪地区

住民自治協議会主催で開催しているおれんじカフェに参加させていただきました。6月には疾患センター長の田中医師による認知症講演会を行い皆さん熱心に視聴されていました。



◆認知症のつどい「Compass」(こんぱす)に参加しました。

7月8日(水)長野保健医療大学で行われ、認知症当事者・家族、支援者などがそれぞれ自分の現状について話をしていました。印象的だったお話として、「当日の朝に他の参加者に迎えに来てもらったがそのことを覚えていない」ということです。認知症当事者との関わりが少なかった私にとって認知症のものを忘れを実際に感じた瞬間でした。そして、その話をしている時に本人も周りも明るい雰囲気だったことも印象的でした。支えている人達が本人を理解している暖かい雰囲気があるからこそそのものだと感じました。今後認知症疾患医療センターへの相談に対して、そのような暖かい雰囲気でお受けしたいと思いました。

<カフェでお話した内容をお伝えします>

医師の指示により、認知機能を調べるために検査を行っています。検査は体調により結果が左右されるもの。

上手いかない部分があっても、たまたま忘れる事だってあります。それよりも医師から結果を聞いて、できる事は自分で、苦手になっている部分はお手伝いを頼むというように、自分が気持ちよく生活できるヒントにしてもらえればと思います。



検査してどうするの？

認知症の予防にはどんな事をすればいいの？

2026 年には 65 歳以上で認知症になる人の推計は 654 万人、6 人に 1 人が認知症。MCI も含めると 632 万人で両者では 3 人に 1 人が認知症になるという推計がでています。

今から認知症の予防(生活習慣病の予防または治療によるコントロール・体を動かす習慣、人との交流)をしていきましょう。また心配事があれば当院にご相談下さい。MCI、認知症の初期の場合は新薬である抗アミロイドβ薬の治療も行っています。



今後も認知症に関する情報を皆様にお届けしたいと思います
気になる事がありましたら、まずは下記にご相談ください

栗田病院認知症疾患医療センター
専用ダイヤル 026-228-6666 (飯島・小林)